

「ハア〜有るとも、戸口の妙廣はん」

「何か、あの糊屋のお婆んか……あの聾はんの……」

「ハア耳こそ聞へんがお金を澤山貯めて近所へ小金を貸してはるそうなし、私所は借つた事ないけども、彼れが世に言ふ、お多やんの鼻紙で、ふくつん、と云ふのやし、それに盲目の眼鏡さんも、お金を持つてると云ふ世間の噂やし、それはそふと、お竹はん、今頃あんたお米洗ふてやが、何んでやね」

「ハイナ、お松さん姐はん、マア聞いとう、内の親父さん、今朝車を挽いて出しなに、一パイ仕事をしたら、錢を持つて歸つて遣ると言ふて出て行つたんやが、駐車場で籤を引いたら籤まんが悪ふて一番終になつて漸ふ今一パイ仕事をして錢を持つて歸つて來たんで、そのお金でお米を買ふて來てこれから晝御飯を炊くのやは、それはそうと、お松さん姐はん、貴女とこの兄さん此間仕事休んでやつたやないか」

「ハアお竹はん、彼れ何も氣樂に休んだんやないし、マア聞いとう、あんな阿呆らしい事ないし、今でも思ひ出すと腹が立つて腹が立つて堪らんやし」

「マアお松さん姐はん、如何にしてやつたんやね」

「イーエー、宅の人此の間雨が降つた晩、仕事から遅ふ歸つて來て、今から風呂へ行くのも大儀なと云ふて、パッチを脱いで井戸端で足を洗ふて居たら、何時もの野良猫が這入つて來て、パッチの上へ

糞たれしよつたんやわ、慌てゝ洗濯をしたんやけども、雨降りで乾かへんので仕方がないので到頭一日休んだんやが、日が暮れに雨が上つたんで例へ、小使だけでも儲けて來ると云ふけれどもまだパッチが乾いたないがなと云ふたら、宜い事が有る、五厘で糊を買ふてこいと云ふ依つてに糊を買ふて來たら、鍋炭を糊で練つて足へ塗つて出て行つたんやわ、八軒家で客が末吉橋まで何程やと言ふので七錢呉れと云ふたら、五錢で行けと言ふので、マア遊んでゐるよりかましやと思つて客を乗せて末吉橋まで行つたら、末吉橋やない、住吉橋やと云ふので、住吉橋なら到底も五錢で行けんと言ふたらマア行つて見い先方へ行つたら何んとかして遣ると云ふので、住吉橋まで行つたら、矢張五錢しか呉れんので、やつさもつさ、言ふてゐる所へ、巡查さんが來やはつて交番所へ行つたのや、處が宅の親父さんが無中になつて足を拭いたら、鍋炭はげて巡查に叱られて謝やまつて歸へて來たんや、翌朝御飯を食べると又猫が來たので、己の爲に甚い目に逢ふたと側に有つた薪木を投げたら、猫に當らんと、障子に當つて障子の棧を折つて紙を破つて甚い損をしたので、今でも猫の事を思ふと腹が立つてどもならんねんし」

「マア左様か、併しお松さん姐はん處は、子供が無いので宜いわ、兄さんが仕事に出はつたら其の後で、宅で手内職の一つも出来るけども、妾所の宅は子供が仰山有るので、手仕事も出來へんで本當に損やは」